
謎色物語3

Sorairo 光

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

謎色物語3

【Nコード】

N5019L

【作者名】

Sorairo 光

【あらすじ】

謎色シリーズです。本当はシリーズ化するつもりなかったんだけど、題名が思いつかないほど謎な文章が多いのでシリーズってことでお許しください。これまでの謎色シリーズとは謎過ぎる文面以外は共通点がありません。

痛い。

孤独だと思った。

誰にも必要とされていないから……生きている意味がわからないから。

違う、生きている意味はある。

私には家族がいる。

なのに誰にも必要とされていない。

家とかじゃなくて、自分の、自分しかいなくて当然なスペースにその自分すらもない。

私自身は“個性的”ではあるけど、そこには私と言う個性はない。だから空っぽなんだ。

これは、恋をしたときと似たような感覚だ。

片思いで苦しくなるような。

いや、違うな。

空しいんだ。

——見得ないよ。

苦しくて苦しくて。

目の前に用意された白いお皿、その上にはお花柄の飾りと、色とりどりの野菜。

私は幸せなのだ。

安定な家において、何不自由なく暮らしている。

何不自由なく？それはちよつと違うかもしれないけど、生活していく上で困ったことはない。

——視えないよ。

その野菜をおはしで持ち上げて、酸っぱいにおいのするタレにつけて口に運ぶ。

空しいよ。

何も感じないよ。

口の端がピリツと痛んだ。

時々ある。

無性に刺激のあるものが食べたい。

そしてがつついて泣きそうになる。

それは多分私の体の拒絶反応。

泣きたい時に泣けなくなった私に泣けというメッセージ。

空しい以外に感じなくなった私にまだ感情はいきているというメッセージ。

痛いと思ったら痛いと感じろってことなんだと思う。

泣きたい時には泣けてことなんだと思う。

私だって泣きたくないわけじゃない。

泣きたい時だってある。

でも、もう体があんまり反応してくれないのだ。

それでも感覚は生きているから、私に泣けというのだ。

泣け、鳴け、感じる。と、体は食を通して私にメッセージを送る。

でも私は泣かない。

鳴けない。

羽をもぎ取られたのではなく、自分からもぎ取ったのかもしれない

と、最近やっと理解し始めた。

目の前にも後ろにも道はない。

当然だ。

何もない。

最初っからココには何もない。

最初っから・何も。

鳴け、狂ってしまえ。

一度だけでも。

それで私という自分が見えるなら。

他人にどう見られようと関係ない。

繰り返せ。

鳴け、噛え、吐き出せ。

感情の全てを。

(後書き)

鳴けも喰えも色々わざとですよ (焦)
ひらがな間違いがあったらそれは単なる間違いですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5019/>

謎色物語3

2011年10月5日13時49分発行